

日本放射光学会設立の経緯

On the Establishment of
The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

大隅 一政、田中健一郎

Kazumasa Ohsumi, Kenichiro Tanaka

高エネルギー物理学研究所

National Laboratory for High Energy Physics

日本放射光学会は昭和63年4月1日に正式に発足することとなった。本学会は設立趣意書（本誌114頁）にもあるように、放射光利用を目的とする加速器・光源技術はもとよりそれらを含む自然科学および工学・医学といった広い学問領域を包含するものである。そしてこの広い学問領域を新たに放射光と呼ぶことにしてこの学会を「日本放射光学会」（The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research）と命名することとした。

このような学会が必要であるとの議論はかなり前からPF懇談会などにあったようであるが、この度の学会設立のための直接的な動機は全国の放射光に携わる研究者が既存の放射光施設にとらわれず、放射光に関する情報交換を迅速かつ円滑にし、放射光源を含む学際領域の開拓等学問的成果の向上のための場が必要であるとの認識からである。

この様な背景の下に、昭和61年の秋も深まった頃から関係者の間で具体化するための模索が始められ、年が明けた昭和62年1月から発起人の輪を広げるとともに、同年2月4-5日に高エネルギー物理学研究所で開催された科学研究費補助金総合研究（B）（代表者：千川純一）による研究会「シンクロトン放射光科学の将来計画の調査」における懇談会の席上で高良和武先生から「学会設立を目指して準備を始めたので皆さん方の積極

的な参加・協力をお願いしたい」との話があり、これを契機に具体的な学会設立への歩みが始まった。

1年余りに亘る学会設立の準備期間において、進捗状況および時間の経過に応じて必要となる議論の場が、設立準備会、ワーキンググループ合宿、発起人総会、拡大幹事会および評議員候補者会議として夫々設けられたが、そこでの議論の内容に関してはワーキンググループ合宿と拡大幹事会を除くものについて〔資料-1〕として議事録あるいは議事要録を末尾に掲載した。ここでは経過の概要を記すこととして、詳しくはこれらの資料を参照して戴きたい。

高良先生を中心として発起人を広く募る運動がすすめられ、3月9日に東京大学山上会館において第1回の学会設立準備のための会合が発起人21名を集めて開催された。この会合において、学会の組織・定款・事業内容に関する議論がなされ、また学会設立のための具体的な手順が検討された。そしてこの議論を基にワーキンググループによって各項目についての試案を5月初旬までに作成することとした。そしてこのワーキンググループの構成は専門分野・地域性を充分考慮して行うべきであるとの条件付で各々の責任者に一任された〔資料-2〕。またこの席上、この設立準備の会の名称を設立準備会とすることが決定した。

第2回設立準備会は5月23日に東京大学工学部

で行われ、ワーキンググループによる試案について検討が加えられた。試案はなお引続き検討すべき点はあるものの概ね了承された。この席上で学会の発足は昭和63年4月とし、この時に設立総会を開催することが決定されたが、この時までの準備等に関する具体案を再びワーキンググループで検討することとなった。

第3回設立準備会は10月3日に東京大学山上会館で開催され、学会発足に至る手順が承認された。また学会事務を委託する業者の選定を含めて、今後の設立準備から正式発足までの活動を円滑に行い得るような体制を確立することが必要とのことで、各分担事項の担当者の人選を進めることとなった〔資料-2〕。また学会の準備段階から正式な発足への移行をスムーズに運ぶために、準備段階から可能な限り発足後での制度に準拠した活動形態を採る必要がある点が強調された。

発起人総会は昭和62年10月31日に東京大学山上会館で代理出席者を含め45名の参加を得て開かれた。総会での議題は、事前に発起人に配付した設立趣意書、組織・定款、事業内容および設立までの手順に関する事柄であって、欠席者からのアンケート回答結果を交えて種々議論があったが概ね了承された。

発起人総会での承認事項を受けて、発足時、即ち昭和63年4月1日における学会組織を準備段階において決定しておく必要があるため、学会発足以降に有効となるべき定款・細則の精神にできる限り則った方法による会長候補者および評議員候補者の選挙を行うこととなり、発起人全員（選挙告知日：昭和62年12月5日現在245名）による互選によって各々を決定した。この選挙によって会

長候補者、評議員候補者および幹事といった組織、およびこの頃には事務を委託する業者も決り、発足を迎える体制が整った。なお、会長候補者および評議員候補者の名称は、学会発足前の発起人総会によって承認を受けた選挙管理委員会〔資料-2〕による選挙によって選出されたという経緯によるもので、学会発足後の総会において定款の承認を受ければ正式な会長および評議員となる筈である。

昭和62年12月26日には無機材質研究所において、1月23日開催の評議員候補者会議に向けての、事務局、各幹事、ワーキンググループ有志による拡大幹事会が開催され、各幹事の分担事項についての報告・審議が行われ設立間近の学会としての入会案内、賛助会員の募集、学会誌の編集方針、年会開催等の具体的な事業計画が検討された。

昭和63年1月23日には、評議員候補者会議が東京大学山上会館において開催され、拡大幹事会での検討結果が一部を除き審議の後に承認された。評議員会での議決等運営に係わる事柄については今後の問題として残されているが、この会議により4月1日の学会発足ならびに4月23日の第1回総会を迎える準備は整った。

第1回設立準備会から一旦は決りながらも常に議論が繰り返されてきた点は、放射光学の将来計画に関する事項の検討の場の設置と学会賞設定の是非および学会の名称の問題である。その他、既存の放射光施設に関連する各組織との関係等、今後とも引続き慎重に議論を進めなければならない問題も残っている。

第 1 回日本放射光学会設立準備会議事録

日 時：昭和62年 3 月 9 日（月） 13：30～16：30

場 所：東京大学工学部物理工学科会議室

出席者：安藤正海，石井武比古，伊藤文武，岩崎 博，大隅一政，菊田惺志，黒田晴雄，小村幸友，高良和武，佐々木泰三，下村 理，田中治郎，千川純一，床次正安，波岡 武，早川和延，冨家和雄，藤井保彦，松井純爾，三井利夫，宮原恒昱（21名）

議 事：

1. 標記会議の議長に高良発起人を選出した。
2. 高良議長から学会設立の呼びかけに至った経緯について説明があった。また，設立呼びかけ文を約80人に発送し，3月8日現在60人から設立発起人となることを承諾する旨の回答があったとの報告があった。
3. 岩崎発起人から既存の学会の組織を示す例として，電顕学会，結晶学会，フォトン・ファクトリー懇談会各々の定款・会則の配布があり，学会組織の大綱について種々議論した。その結果，とりあえず任意団体として発会することとした。また，近く開かれるSRI-88会議へのこの学会の寄与の仕方について議論があった。
4. 岩崎発起人から放射光学会定款案の配布があり，種々議論の結果，名称は日本放射光学会とすることとし，また学会の行う事業としての学術講演会，研究発表会の開催及び学会誌の発行等について議論した。また研究奨励，業績表彰も事業の中に含めるべきであるとの意見もあった。その他，会の組織のあり方，及び既存の放射光関係の組織，例えばPF懇談会，INS-SORグループ，関西6 GeV-SR計画世話人会，HISOR懇談会，東北TURNS 005グループ等との関係についても種々議論があった。
5. 学会設立までの手順について種々議論があり，大要以下の事項が決定された。
 - (1) 設立準備会（本日の会合出席者に十人程度を加えたもの）を発足させる。
 - (2) その中にワーキンググループを作り，学会の組織，事業，設立趣意書についての具体案を5月初旬までに作成することとした。

{	学会の組織，事務局などの案作成……………大隅（高エ研）
	学会の事業などの案作成……………藤井（阪大）
	設立趣意書の案作成……………安藤（高エ研）
 - (3) 発起人名簿を確定し，(2)の案の承認を求める。
 - (4) 設立総会の準備を行い，他の学会誌に学会設立のニュースを流す。
 - (5) 発起人に入会申込書を配布し，会員募集を依頼する。
 - (6) 当座の学会の運転資金は発起人の前納会費によることとする。

第2回日本放射光学会設立準備会議事録

日 時：昭和62年5月23日（土） 15：00～17：30

場 所：東京大学工学部物理工学科会議室

出席者：安藤正海，飯高洋一，岩崎 博，植木龍夫，大隅一政，太田俊明，菊田愷志，高良和武，
佐々木泰三，坂部知平，下村 理，田中治郎，千川純一，床次正安，早川和延，富家和雄，
福谷博仁，藤井保彦，堀越源一，松井純爾，松下 正，三井利夫，宮原恒昱，渡部 力，
渡辺 誠（25名）

議 事：

1. 学会組織，事業内容，設立趣意書各ワーキング・グループ代表から各ワーキング・グループでの検討結果の資料が配布され，各々について種々質疑応答があり，大要以下の事項が決定された。
2. 学会組織に関して配布された定款（案）について種々議論の後，次の点が追加あるいは決定された。
 - (1) 学会名に英訳をつけること。その名称は
The Japanese Society of Synchrotron Radiation Research とすること。
 - (2) 会長，評議員の選挙は年1回秋にまとめて行うようにすること。
 - (3) 学術会議に学会として登録することを考慮すること。
 - (4) 学会賞を設けることを定款に明記すること。
 - (5) 会長の任期は1年とすること。
 - (6) 年会費につき正会員は6,000円とし，学生は4,000円とすること，購読会員は15,000円，賛助会員は1口50,000円とすること。
 - (7) 事務局に関しては今後とも更に学会事務の委託可能な業者を捜すこと。
3. 事業内容に関して配布された資料に基づき種々議論の後，昭和63年4月に学会を発足させ，この時に設立総会を開催することが決定された。この設立総会に先立ち，今秋11月に発起人総会を開催することが決定された。
学会誌の発行は年4回以上とすることが決定された。
4. 学会設立に向けての今後の準備等に関する具体案を作成するため，今夏再び学会組織，事業内容，設立趣意書各ワーキング・グループが合同で会合をもち，検討結果を次回の学会設立準備会に提出する事が決定された。
5. 学会設立趣意書については，配布資料に基づき検討が加えられ，今後は安藤正海発起人が高良和武，佐々木泰三両発起人と協議の上，最終案を作成することとなった。また，設立趣意書の発信人は学会設立準備会代表高良和武とすることが決定された。
6. 次回会合は9月に開催することが決定された。

第3回日本放射光学会設立準備会議事録

日 時：昭和62年10月3日（土） 14：00～17：00

場 所：東京大学山上会館

出席者：安藤正海，飯高洋一，伊藤文武，岩崎 博，植木龍夫，大隅一政，菊田惺志，黒田晴雄，高良和武，近藤泰洋，佐々木泰三，下村 理，菅 滋正 田中治郎，千川純一，富家和雄，福谷博仁，藤井保彦，堀越源一，松下 正，三井利夫，宮原恒昱，渡部 力，渡辺 誠
(24名)

議 事：

1. 前回議事録（案）が一部修正のうえ，承認された。
2. 学会組織検討ワーキンググループの大隅発起人から細則（案）および各委員会規程（案）が示され，種々議論のうえ一部を修正して承認された。
3. 学会趣意書ワーキンググループの安藤発起人から趣意書修正案が提出され，若干の変更を加えることで承認された。
4. 学会事業検討ワーキンググループの藤井発起人から来年4月の学会発足に到る具体的手順（案）が示され，種々議論の後承認された。このなかで学会事務を委託する業者の選定を更に進めることが決定し，発起人総会後の活動を円滑にすべきであるとの意見が出された。またこの会の後，学会発足までの具体的活動を担当する責任者を，現在の事務局と各ワーキンググループで検討のうえ決定することとなった。
5. 発起人総会を10月中に開催することが決定された。

日本放射光学会設立発起人総会議事要録

日 時：昭和62年10月31日（土） 14：00～17：00

場 所：東京大学山上会館2階会議室

出席者：浅見 明，蟻川達男，安藤正海，飯高洋一，石黒武彦，岩崎 博，植木龍夫，上村税男，宇野良清，大隅一政，大政正明，尾嶋正治，小寺正俊（上坪宏道代理），川村隆明，菊田惺志，高良和武，小早川久，近藤泰洋，坂井信彦，佐藤 繁，塩谷亘弘，下村 理，菅 滋正，鈴木茂雄，高橋敏男，高宮 誠，田中健一郎，田中治郎，千川純一，床次正安，中島邦雄（青木貞雄代理），長田哲夫，波岡 武，橋爪弘雄，篠野嘉彦，早川和延，原 雅弘，檜枝光太郎，久継徳重，福谷博仁，富家和雄，藤井保彦，堀越源一，渡部 力，渡辺 誠(45名)

議 事：

1. 高良発起人から学会設立の呼びかけに到った経緯ならびに設立準備会によるその後の作業経過に関する報告があった。
2. 安藤発起人から日本放射光学会設立趣意書（案）について説明がなされた。趣意書は学会を位置づける重要な文書であることから、内容に関して更に検討を加える余地を残すとともに、英訳も考慮中である旨説明された。これに対して用語としての放射光の是非、包含する研究分野、学会の規模などについて種々の議論がなされた。
3. 大隅発起人から日本放射光学会定款および細則、学会の組織、事業計画・任期（いずれも準備会案）について説明がなされた。学会誌の様式・内容に関連して種々の意見が交わされたが、12月選出予定の評議員候補者による評議員候補者会議で継続審議することとした。
4. 藤井発起人から、11-12月の会長候補者・評議員候補者選挙から来年4月の学会設立にむけての設立手順案に関して説明がなされた。年会・総会の4月開催については二、三の異議が出たが、これについては来年の4月に学会設立総会、記念講演会を実施するが、通常年会、総会については評議員会議で審議すべきである旨説明があった。
5. 設立発起人総会に向けての資料とともに配布したアンケートの集計結果が大隅発起人により披露された。120件の回答があり、大多数はおおむね準備会案に賛同して戴けるものであったが、多数の有意義な指摘事項もあった。
6. 大隅発起人から学会事務の業務委託候補者として3社に関しての説明がなされた。

主な承認事項：

- (1) 学会設立の手順案は賛同多数により承認された。
- (2) 来年4月設立のための事務局世話人（高良和武，岩崎 博，大隅一政），選挙管理委員（岩崎 博，大隅一政，菅 滋正，渡辺 誠，下村 理，藤井保彦）および各幹事（庶務：田中健一郎，会計：菅 滋正 編集：宮原恒昱，行事：下村 理，渉外：藤井保彦）が賛同多数により承認された。
- (3) 学会設立趣意書，定款および細則については，さらに検討を加え評議員候補者会議に提出することが了承された。
- (4) 学会設立準備金および次年度会費の納入を設立発起人各位へお願いすることが承認された。
- (5) 学会業務委託はアイオニクス社に依頼することが承認された。

その他 （アンケートの回答も含む）

1. 既存の学会との関係についての意見交換があり，この問題は慎重に取り扱う必要があることが確認された。
2. 既存の放射光施設のユーザー団体との関係を明確にする必要があることが指摘された。

日本放射光学会評議員候補者会議議事録

日 時：昭和63年1月26日（金） 14：00～17：00

場 所：東京大学山上会館会議室

出席者：高良和武（会長候補），安藤正海，飯高洋一，石井武比古，岩崎 博，植木龍夫，大隅一政，
太田俊明，菊田惺志，小村幸友，佐々木泰三，佐藤 繁，下村 理（行事幹事），菅 滋正
（会計幹事），千川純一，床次正安，波岡 武，富家和雄，藤井保彦（渉外幹事），
宮原恒昱（編集幹事），渡部 力，渡辺 誠各評議員候補者
田中健一郎（庶務幹事），柿沼孝俊（事務局），西野三和子（事務局）

議 事：

1. 標記会議の議長に佐々木評議員候補者を選出した。
2. 評議員候補者会議の定足数について論議があり，今回は暫定的に評議員候補者総数の $\frac{2}{3}$ 以上の出席が確認され，会議として成立する旨了承された。
3. 高良会長候補者から設立発起人総会（昭和62年10月31日）における議事と検討事項，承認事項に関する報告があり，一部訂正の上，承認された。
4. 高良会長候補者から会長および評議員候補者選挙の開票結果に関する報告があり，5名の同数得票者から4名の評議員候補者の選出は，発起人代表として同氏が，分野，年齢を考慮して行なったことなどが説明された。これらの結果は，賛同多数で承認された。また，評議員候補者の辞退申し出に関しては，慰留に努めること了承した。
5. 安藤評議員候補者から学会設立趣意書に関して，設立発起人総会で指摘された部分の検討および関係者等との協議結果について報告があり，審議の結果改正案が確認され，安藤評議員候補者が成文を作成することになった。用語をめぐってかなり議論された日本語学会名は，設立後の定義の定着を考慮して「日本放射光学会」であることが承認された。また英語名に関しては，設立総会までに内外の学識者に意見を求め決定することとした。
6. 大隅評議員候補者から学会の定款，細則について報告があり，若干の部分を訂正した他は設立発起人総会で総会への提出を承認されたものと，殆ど内容が変わっていない旨の説明があった。評議員会の運営，議事の決定方法等に関する規則が定められていないことが指摘され，種々の議論の結果大隅評議員候補者を責任者としてワーキンググループ試案を作成し，次回の評議員会で審議することとした。
7. 下村行事幹事より行事委員会委員の紹介ならびに4月23日開催予定の設立総会および第1回年会としての記念講演会に関する報告があった。講演内容については議論があったが，本学会の趣旨を明確に位置付けるもので，学会の対象となる広い研究領域を含むものであるという条件で，行事委員会に検討を一任した。
8. 宮原編集幹事から編集委員会委員の紹介ならびに学会誌の編集方針，発行計画に関する報告が

あった。創刊号は5月中に、次号以降3号を年度内に発行する旨説明された。創刊号の内容、次号以降の編集方針について種々の議論があったが、創刊号については、時間的な制約から編集委員会に一任し、その他の検討事項に関しては、編集委員会で検討の上、次回の評議員会で審議することとした。

9. 藤井渉外幹事から渉外委員会委員の紹介ならびに活動計画について報告があった。

「Synchrotron Radiation News」への本学会設立ニュースの掲載要請、「SRI-88」の後援、日本学術会議への登録等を議論の結果確認した。

10. 菅会計幹事から昭和63年度予算案が提出され、会費収入や学会誌広告掲載料について議論があったが、大枠については承認された。また、諸委員会等の旅費に関する議論の結果、学会活動の発展を考えると、原則として支払うべきであるが、現状では節約せざるを得ない状況であることから、当面は支払えないことを確認した。

11. 田中庶務幹事から会員勧誘の手順に関する説明があり、評議員候補者は極力努力するとともに、設立発起人全員に会員勧誘を依頼することとした。

12. 第1回評議員会は4月23日設立総会の日に行なうこととした。



〔資料-2〕

ワーキンググループ（◎：委員長，○：副委員長）

設立趣意書

◎安藤正海，○宮原恒昱

組織・定款

○安藤正海，植木龍夫，◎大隅一政，下村 理，松下 正，宮原恒昱

事業内容

○安藤正海，太田俊明，近藤泰洋，菅 滋正，◎藤井保彦，渡辺 誠

設立準備体制

事務局

高良和武，岩崎 博，大隅一政，アイオニクス(株)

幹事（学会発足後も継続）

庶務：田中健一郎，会計：菅 滋正，編集：宮原恒昱，行事：下村 理，渉外：藤井保彦

選挙管理委員会（◎：委員長）

◎岩崎 博，大隅一政，菅 滋正，下村 理，藤井保彦，渡辺 誠

